

男女共同参画センターはあもにい 第2回運営審議会

平成 26 年 1 月 29 日（水）

1. 日時 平成 26 年 1 月 29 日（水）10 時～12 時

2. 場所 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4F =会議室=

3. 出席者 運営審議員 7 名

清重尚弘委員（会長）、八幡彩子委員（副会長）、伊藤一敏委員、

飯村直亮委員、小出史委員、中山敏子委員、濱本伸司委員、

オブザーバー 熊本市企画振興局市民協働課男女共生推進室 森川毅

事務局 代表企業 A 尾池千佳子（九州綜合サービス株式会社代表取締役）

上村浩二（九州綜合サービス株式会社専務取締役）

構成企業 B 小山雄治（熊本産業文化振興株式会社常務取締役）

構成企業 C 藤井宥貴子（有限会社ミューズプランニング代表取締役
兼はあもにい館長）

加島裕士（はあもにい副館長）

総務管理課：吉田寛、山田晋、吉田稀世、反後文代、田中美帆

事業課：入家幸展

4. 会次第及び議事内容

（1）開会

（2）開会あいさつ（館長：藤井宥貴子）

（3）共同企業体代表あいさつ（九州綜合サービス株式会社代表取締役 尾池千佳子）

（4）出席委員紹介

（5）審議

議題 1 平成 25 年度実施事業報告

議題 2 平成 26 年度事業案について

議題 3 平成 25 年度貸館事業実績状況報告

5. 議事録

（1）開会 10 時より

（2）開会あいさつ（館長：藤井宥貴子）

藤井：皆さま、おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。私どもの指定管理も、2 年目が終わろうとしています。

今年度予定しておりました講座等は、2 月 3 月分を残すのみとなりました。おおむね年度初めに掲げましたとおり、円滑に取り組むことができたと分析しています。

今年度初めて、責任ある立場に一人でも多くの女性を熊本市の審議会に送り出そうということで立ち上げた一年間にわたる「ウィメンズカレッジ」。今日は受講生の方がお二人傍聴に来ていただいておりますが、定員 20 名のところ 30 名の受講生の方が集まり、2 月 8 日に無事に修了式を迎える運びになりました。講座を立ち上げるにあたり、試行錯誤していろいろなご意見をお伺いしながら全体を組み立てましたが、受講生の満足度も高く、中にはこの受講中に起業したり、既に審議会の審議員になられた方も出始めております。これからも長い目で見ながら、いろいろな活躍の場へつなぐ支援をしていきたいと考えているところでございます。

課題としては、昨年末に黒髪校区と初めて意見交換会をしました。私たちが思っていた以上に、地域の方々への働き掛けが足りていなかったという現実を突き付けられました。一つ一つもう少し丁寧に私どもの取り組みを説明し、ご協力やご支援を仰ぐ必要があったというのが大きな反省点です。2 月には自治会に足を運んで説明をし、また一から私どもとの関係を築きあげていくことに取り組んでいきたいと思っております。まずは地域の皆さまに気軽に立ち寄っていただける「はあもにい」づくりが大事だということを、スタッフ一同再確認をしたところです。

その取り組みの一つとして、地域の皆さんに立ち寄っていただきたいということで、情報資料室を一部リニューアルしております。

一昨日、NHK の「クローズアップ現代」という番組で、女性の貧困問題が大きく取り上げられておりました。私どもでも、この指定管理を受けたときに、これは一つの大きな課題だということで、そこにつながる一つの取り組みとして「テレワーク推進」を掲げておりました。在宅で仕事をすることによって、その貧困問題の一助になればという思いで一年目二年目と取り組んできましたが、次年度に向けては、さらにこれが先に進んで、実際にここで講座を受けた方々が仕事につながっていく仕掛けにしていきたいと、改めて思いました。

具体的な次年度の計画についても報告をさせていただきますので、皆さま方の忌憚（きたん）のないご意見をいただければと思っております。

次年度はスタッフの専門性をさらに深めていきながら、また初心に立ち返って頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

進行（山田）：続きまして、はあもにい管理運営共同企業体の代表であります九州総合サービス株式会社代表取締役尾池千佳子よりあいさつをさせていただきます。

（3）共同企業体代表あいさつ（九州総合サービス株式会社代表取締役 尾池千佳子）

尾池：皆さま、おはようございます。本日は大変お忙しい中、また大変お寒い中に、はあもにい運営審議会にお越しいただきまして誠にありがとうございます。そしてまた、日頃より皆さま方には、はあもにいの業務に対しまして多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。重ねて御礼申し上げます。

今年是指定管理者制度になりまして、3年目を迎えることになります。昨年末には先ほど館長から話がありましたが、黒髪校区と意見交換会を開催させていただきまして、地域の皆さま方から貴重なご意見、そしてアドバイスをいただくことができ、運営にもご協力いただけると言う、うれしいお言葉もいただくことができております。

3年目を迎え、市民の皆さま方に、より一層喜んでいただける施設づくりを目指し、スタッフ一同頑張っております。今年一年よろしくお願いいたします。

進行（山田）：お手元には本日の会次第と資料を置いております。ご確認ください。

（4）出席委員紹介

出席者紹介

欠席者紹介 重村和征委員、那須円委員、原幸代子委員、坂口京子委員

オブザーバー紹介

では、審議に移らせていただきます。これから先は清重会長に進行をお願いします。

（5）審議

議長（清重会長）：それでは皆さん、次第をご覧くださいますと、審議は3つ議題がございます。最初に議題1、平成25年度実施事業報告12月1月実施分までについて、吉田さんをお願いします。

・・・・・・・・・・＜スライドによる平成25年度終了事業の報告＞・・・・・・・・・・

議題1 平成25年度実施事業報告

吉田（稀）：では、私のほうから今年度開催した事業についてご説明をさせていただきます。5月以降に実施して終了している事業が32ございます。今、進行している事業が7つ。3月までに予定されている事業があと6つございます。

それぞれの講座の詳細に関しましては、お手元の資料、事前資料に細かい数字が入っております。あと同じくお手元の資料の16ページからアンケートの集計がありますので、そちらも併せてご参照ください。

今年度の事業に関しましては、一つ一つの講座企画の段階で企画の内容や、また企画の対象者・どういった方にご参加いただきたいかということ、事業を組み立てる中で考えながら実行して工夫してきました。全ての事業において集客が十分だったわけではありませんが、集まりが十分でなかった講座に関しては、内容や広報の方法などについて今再検証をしているところです。

それでは、実施した事業についてご案内します

◎「男女共同参画に関する標語・川柳」を募集しました。

50点が集まり、優秀賞が1句、佳作3句、全部で4句を選出しました。こちらの4句はホームページや館内の掲示、はあもにい通信でご紹介すると同時に年賀状に採用するな

ど、「はあもにい＝男女共同参画の推進」というイメージを定着する材料としても活用しております。こちらの事業は次年度も継続していきたいと思っております。

◎「もしもし検定3級資格取得対策講座」を開催しました。熊本市が企業誘致に力を入れており、大型のコールセンターが増えているという状況を踏まえて実施した講座です。

◎市民グループの企画「ミズベアテシロタゴードン人権フォーラム」です。審議員でもいらっしゃる中山敏子会長が務められます熊本市女性リーダー協議会の主催です。はあもにいで実施するということとはまた違った色合いの大変意味深い内容の講座になりました。

◎「トゥルーカラズ入門講座」コミュニケーションのスキルアップの講座はとても人気が高く、募集すると同時にキャンセル待ちが出ました。コミュニケーションスキルへの関心の高さが改めて感じられる企画となりました。講師は、はあもにいの総合相談室の相談員の方です。はあもにいでは25年度はさまざまな機関や団体、個人との連携、人材の活用、ネットワークづくりをテーマに掲げておりましたので、今回いろいろな方々の知恵を借りながら講座を組み立てるという取り組みの一つになりました。

◎「男女共同参画週間の記念講演会」は友田明美先生にDVが子どもの心にどのような影響を与えるかという講演をしていただきました。県弁護士会の共催で女性の無料法律相談も同時開催をいたしました。また、同時開催事業として、多目的ホールで「まつぼっくり劇場」を行いました。通常のはあもにいの幼児室の託児対象年齢が1歳半から未就学までになっておりますので、小学生のお子さんを預かれるような催事を実施することでお母様方の参加を促せるのではないかと考え、幼児室のスタッフも企画の段階から加わって全館的な取り組みとなりました。

◎「カジダン応援プロジェクト」です。こちらは家事をする男子「カジダン」を増やしていこうというプロジェクトの企画です。男性にも料理や家事に親しんで生活の基本スキルを身に付けていただきたいというのが目的ですが、日常の料理講座となると男性がどれだけ集まるか分からないという不安もありまして、趣味性とかレジャー性を高めたイベント料理に近いような内容にしました。大変多くのご応募をいただきました。特に応募が多かったのが、妻もしくは母親が申し込んでこられたことでした。楽しみながら家事や料理に親しみ、日常的に取り組んでいただきたいと思います、シリーズ化しました。

◎企画が前後しますが、こちらも男女共同参画週間に併せて行った共同参画のパネル展です。県から貸していただいた啓発「女性に対する暴力をなくす運動啓発パネル展」を一週間掲示をいたしました。はあもにいとしても何か啓発できるようなパネルを今後制作していくことを検討しているところです。

◎「親子で楽しむ3B体操」です。こちらの講師を務めていただきました安藤智江子先生は、はあもにいをよくご活用いただいている先生です。とてもにぎわいましてお母様方にもリフレッシュできたということで喜んでいただいた講座です。

◎「見知らぬ人への対応を子どもに伝える親子セミナー」です。「見知らぬ人」とはどういう人なのかを伝えるセミナーで、親と子それぞれ別の会場で同時に開催をしました。子どもの対象年齢が年長児から小学校2年生ぐらいと限られておりますので、動員は難しかったのですが、大変意味のある講座だったと思います。今後は保育園や幼稚園、小学校などに持ち出すことで対象者に正しく知識を伝えていきたいと考えております。

◎「今すぐ始める！ 再就職準備講座」は、離職した人がすぐに思うような職に就けないという状況の中、自分自身を見つめて3年後、5年後、夢や理想をどのように具現化していったらいいかということを、ワークショップを組み込みながら、みんなで考えていく講座になりました。館長の藤井が講師を務めました。

◎「親が知らない子どもの恋愛～10代のデートDV事情～」は、DVなどマイナスイメージの多い講座は、参加者が当事者と思われたくないということで足を運びにくい講座だと聞いておりました。そこで、当事者感がなく学べる講座にしようと思い、タイトルなどに注意をしました。今、学生向けには学校でデートDVの講座が行われていますが、その親世代がデートDVというのは一体どういうものなのかを知らないのではないか、子どもたちからデートDVかもしれないと相談されたとき、どのように対応をしたらいいか、そういったことを伝えることができればいいなと思い企画をしました。こちら、はあもにいの総合相談室の相談員の方に講師を務めていただいております。

◎「自分らしい生き方・働き方とは」は企業から依頼があり行った講座です。「ワークライフバランスについて話してほしい」「職員の研修として開催したい」という要望でした。40代から60代の女性が多く、大変勉強になったと、これからの働き方、生き方を見直す良いきっかけになったという感想をいただきました。企業への働き掛け、はあもにいの役割を伝えるためにも、出張講座は今後増やしていきたいと思っております。

◎「パパと子のクッキング&ママのフラワーアレンジメント教室」は、両立支援の事業として開催しました。市民グループに講師を依頼し、団体の活動を支援する取り組みになりました。

◎自主事業として「はあもにい探検隊」講座を開催しました。黒髪地区の小学生たちが夏休みになるとはあもにいに遊びにやってきて「はあもにいでは何をしていますか」「はあもにいの人たちは何をしていますか」と尋ねられるので、子どもたちに、はあもにいのことについて正しく知ってもらいたいと思い、社会見学としてオリジナルのプログラムを作りました。お手元に「はあもにい探検隊」に参加していただいたお子さんの報告書の一部を置かせていただいています。子どもたちは会館のいろいろな施設をデジカメを持って、記録をしながら探検をし、4階のコワーキングスペースでパソコンを使って報告書を作成しました。子どもたちのみずみずしい感性で男女共同参画を捉えていただけたかなと思っております。「はあもにいが推進している男女共同参画ってこんなことだよ」というまとめのところでは、それぞれの子どもたちがいろいろなことを考

えてくれました。私たち自身が気付かされることも多くありました。この企画はもう少し深めて、次年度も実施をしたいと考えています。

◎資格取得講座として「整理収納アドバイザー 2 級の認定講座」を開催しました。断捨離や終活という面でも注目を集めている整理収納の講座です。講座の受講料が認定料も含めて若干高額だったのですが、市政だよりで告知しましたらすぐに定員に達しました。この需要の高さ・注目度の高さを感じました。新しい資格ということで大変注目されていることを実感しました。

◎市民グループ企画として「ペチャクチャナイト」を開催しました。こちらは主催が、女性の自立と起業支援「スタンドアップ」というところで、「～すべての女性に“起業”という選択肢を～」とのスローガンで事業を展開されています。女性の起業を支援する、女性が起業したいという気持ちを応援するという企画で今回傍聴にいらっしやっております。柏木さんもプレゼンターとして発言いただいております。大変会場が盛り上がり「自分も何かできるのではないか」という気持ちにさせてくれる内容でした。

◎資格取得講座として「エクセル表計算 3 級対策講座」を開催しました。会館で用意をしたパソコンを使って 19 名が参加しました。皆さん大変学習意欲が高く、ほとんど 100% の出席率でした。

◎「カジダン応援プロジェクト」の 2 回目です。初回は料理を楽しむことから家事や料理に入ってもらおうという思いがありました。2 回目にご参加いただいた方の中には、一人暮らしに備えて参加したいという方も増え、目的に添った方々にお集まりいただけるようになってきたのではないかなと思っております。

◎「はあもにい de ライブ」は自主事業として開催しました。はあもにいにはリハーサル A 室というバンド練習の部屋があるのですが、練習するだけではなくて、広いホールで演奏する楽しさを味わってほしいという思いで、事業課が主となって企画し、全館で取り組んだイベントになっております。これまでのはあもにいの事業とは少し色合いが違いましたので、初めてはあもにいに来たという人が、出演者も含めて 80% 以上という、はあもにいを知っていただくには大変役に立った事業ではないかと思えます。

◎「在宅ワーク『音声起こし』のスキルを身につけよう!」というキャリアアップの講座を開催しました。こちらは昨年もすぐに定員になりました。キャンセル待ちが定員の 3 倍ありましたので、今回は 2 回、火曜日と土曜日のコースを設けました。昨年との違いは、まず、座学で在宅ワーク・音声起こしについて学んだあと、自宅で講師とやりとりをしながら、在宅ワークをシミュレーションしていただいたことです。最後まで達成した方は、70% 程度だったのですが「実際の仕事を体験することができて、在宅ワークへの心構えができた」というような声も聞かれました。

◎これからの男性の生き方に関する講座として「ソフリエ・パバシエの認定講座」を行いました。昨年は募集に大変苦労したのですが、今回は前回認定者となられた保育士の方に協力者としてサポートを依頼しまして、子どもとの遊び方などもレクチャーしてい

いただきました。今後は、はあもにいの独自のプログラムも作成して、ソフリエ・パパシエのはあもにい講座も企画を考えていけるよう検討しているところです。

◎「キマる！ ステップ教えます！ 初めてのHIP HOP親子講座」を親子で楽しめる講座として、ダンス講座を企画しました。小学生が対象ということで集客が難しい部分もあったのですが、保育士も後ろのほうに待機して、小学生、そして未就学児、そして保護者というとても年代的にバリエーションのある楽しい講座になりました。

◎熊本大学と共催の「ワークライフバランスと多様な働き方を推進する企業の取り組み」を開催いたしました。会場は熊本大学の工学部百周年記念館。総務省のITアドバイザー派遣制度を利用しまして、テレワークマネジメントの代表の田澤由利さんに来ていただきました。実際テレワークをどのようにやっているのか、仮想オフィスというものはどのようなものなのかを会場でデモンストレーションをしていただきました。熊本と東京、そして北海道をつないで、仮想オフィスの中でミーティングをしている様子を会場で見せていただきまして、会場に集まった皆さんも大変驚かれていました。また、受講者の中からは「少子化問題などについて保育士や保育施設の不足とか、待機児童の問題にばかり目がいていたけれども、働き方を変える、テレワークという新しい働き方があるということに気付くことで問題が解決できることがあるのではないかと気づいた」というような意見も寄せられていました。

◎「コミュニケーションスキルアップ講座」を開催しました。今回は特に、人前で話す機会が少なく話すのが苦手という気持ちを克服してもらいたいと思い、コーチングの手法を中に取り入れています。ちょうどこの講座が始まる直前に、滝川クリステルさんの「お・も・て・な・し」がありましたので、スピーチがいかにつくり込まれて、練習を重ねたものであるかなど、そういったお話が盛り込まれていまして、参加者は大変勉強になっていたと聞いております。

◎はあもにいの一番のメインイベントとなります「はあもにいフェスタ 2013」です。今年は11月22日から24日までの3日間開催しました。延べ3,172名の参加がありました。前年に比べて、映画を1本増やしたこと、参加の市民団体が30団体から37団体に増えたこと、またテレビ・ラジオ、メディアをフル活用して、広報を大変強化した結果だったと思います。コンサート、講演会、映画、それぞれの年齢にそれぞれのアプローチができた、とても充実したフェスタとなりました。こちらがフェスタの当日の内容です。バザーをしたり、各団体がそれぞれの教室、部屋でセミナーを開催したりしました。

◎年末に「餅つき会」を開催しました。地域の人たちとの交流をより深めようということで開催をしております。自治会の皆さまなどに協力をいただき、自治会の方、また地域の子ども会の方々にもご参加いただきました。

◎市民グループ企画の三つ目「くまもとゆうき映画祭」を開催しました。食について関心を深めたい、知って欲しいという個人が集まって実行委員を結成し、企画運営したものです。はあもにいとして、企画をサポートしたり、運営のお手伝いをしました。

◎キャリアアップに関する講座「はじめてのフェイスブック講座」を開催しました。会館では、インターネット環境を1階と4階に備え、パソコンも準備しましたので、環境を活用した講座をしたいと思い企画をしました。特筆すべき点は、受講生の半分以上が男性だったことと40代50代60代とこれまではあもにいを知らなかった方が多かったことです。フェイスブックに関心があるけれど、自分ではなかなか取り組めないというような方々が一歩を踏み出す講座として活用していただけたと思っております。

◎自主事業の「クマモト・ウーマン」は4月から9月末まで放送したラジオの番組です。こちらは事業予算ではなく、広報予算で実施しました。はあもにいという会館や名称、その取り組みを知っていただくという目的と、さまざまな方に出演していただくことではあもにいをより身近に感じていただきたいということを目的に実施いたしました。次年度も4月から1年間「クマモト・ウーマン」をとおして、はあもにいの取り組み、そして、はあもにいの人的ネットワークが広がる企画にしていきたいと思っております。

◎両立支援 親と子の料理教室として、「まるごとおいしい！親子エコクッキング」を開催しました。親子の料理教室なのですが、エコをテーマに熊本市のごみ減量推進課に情報を提供してもらい、いろいろなアプローチの方法を考えた企画です。食材を丸ごと使って、ごみが出ないように、そして光熱費も抑えたエコなクッキングということで子どもたちも大変勉強になり、楽しみながら参加することができた講座となりました。

◎自主事業「林家たい平独演会〜笑う門には福来る〜」を開催しました。文化庁の劇場・音楽堂等活性化事業、熊本県立劇場のネットワーク事業として開催したものです。私どもが指定管理になって、初めてメインホールで指定券販売した事業でした。戸惑いもあったのですが、初めてはあもにいに来たという方がたくさんいらっしやって、「はあもにいは楽しい」という気持ちを持ていただけた事業になったと思います。

現在実施中の講座です。

◎「よんでよんでの会」を毎月幼児室で開催しています。幼児室で未就学のお子さんとその保護者を対象にしております。お母さんとお子さんだけではなくておばあちゃんと来られる方やおじいちゃんと来られる方もいらっしやいます。毎回口コミで毎回10組から13組ほどの親子が集まっています。

◎市民文化の交流として、「わたしのギャラリー」を開催しています。2月までに6回、6組の展示を開催し、3月に7団体目の展示をする予定です。

◎「コワーキングスペース」の運営です。はあもにいでは、ワークライフバランスの推進につながる多様な働き方の一つとしてテレワークを推進していますが、こちらを実践していただける場所として「コワーキングスペース」を設けています。登録制のスペースで、まだ告知が十分ではないのですが、こちらでも一度利用した方々がお友だちを紹介してくれており、現在26名の登録があります。

◎今年度初めて取り組んだ「はあもにいウィメンズ・カレッジ」です。一人でも多くの市民の声を審議会へということでさまざまなカリキュラムが設けられています。お手元の資料で充実したカリキュラムをご確認ください。

◎資格取得講座「医療事務2級資格取得講座」は毎回人気の講座です

◎資格取得講座「調剤事務2級資格習得講座」は、今回初めてのメールでの募集を受け付けました。メールで気軽に申し込めるということもありまして、定員20名に対し73名のお申し込みがあり、そのうちメールでのお申し込みは37名。約半数がメールで参加を希望されています。メールで受け付けることでのメリット、デメリットはあるかと思いますが、より気軽に申し込めるということは、利用者にはメリットが大きかったのではないかと感じています。

◎「DV教育プログラム」を開催しております。昨年度も開催しましたが、今回は参加者が少し増えておりまして、男性9名を対象に講座を進めているところです。

これから実施する事業です。

◎2月11日開催の「ハピネスライフ～自分らしい生き方～」。

主催の熊本市人権推進総室と一緒に運営を行い準備を進めております。

◎3月8日には、第2回の「ミモザフェスティバル」を予定しています。

講演会、ワンポイントレッスンなどの講座、映画の上映会も行います。

◎3月2日には、資格取得講座として「メディック・ファーストエイド（MFA＝救急救命救助および応急手当）の国際認定資格の講座」を行います。

こちらは終日かけて行う講座になりますが、子どもたちと関わるような方、そして会館で働くような方にとっても有意義な、有効な資格だと思って企画しました。

◎2月15日には「スモールスタート起業講座」を開催いたします。

◎2月28日に自主事業「文学座による朗読会『夕鶴』」を多目的ホールで開催します。

◎2月20日には、私どもも初めての、地域における男女共同参画連携事業として、南区の幸田公民館で「バランスボール教室」の開催を予定しています。

たくさんの講座を説明させていただきましたので、少し駆け足で言葉足らずで分かりづらいところもあったかと思います。私から事業の説明は以上です。ありがとうございました。

議長（清重会長）：どうもありがとうございました。40にならんとするプロジェクトのご報告でした。どうぞ何か質問やご意見がありましたら、どうぞ。

私には、カタカナの言葉がたくさん出てきて分からないことがたくさんありましてね。何とか、アドバイザーとかキャンセルとかアンケートぐらいは分かるのですが、「カジダン」というのは最初英語かなと思ったらこれは、家事する男性ですか？

吉田：はい。

議長（清重会長）：分かりました。「トレパンケ」とかいう会社みたいなものがあるのですか？ トレパンケ代表？

吉田：はい。それは教室の名前です。

議長（清重会長）：そうですか。それから「コワーキング」というのは？

吉田：コ・ワーキングですね。

議長（清重会長）：協力する？ コワーカーというものがあるのですが。そうですね。

吉田：はい。

議長（清重会長）：そうですか。分かりました。NPO エガリテ？ これも固有名詞だから仕方ないのですね。

議長（清重会長）：私がいらないだけかもしれない。あとは音声起こしとか何か、音声起こしというものは、何ですか。

吉田：はい。音声起こしとは、こういった審議会などで、皆さんが話す内容を録ったテープ・音声を文章として起こしていくという作業が、テープ起こしのことです。

議長（清重会長）：分かりました。テープ起こしのことですね。私は、声を出して「よっこらせっ」とか起こすのかしらと。これは在宅介護かなと思っておりました。今、でもカタカナ語が増えすぎていると、「官庁がなんかもう少し日本語に直せ」というものがありますものでね。できるだけ努力してくださるとうれしい。

議長（清重会長）：同感者2名です。急にどうということは難しいんですけどね。他にどうぞ。中山先生。

中山委員：2年目にしてよくこれだけの事業をなさったと思って、本当に感心して、見せていただきました。男女共同参画を中心にして、乳幼児向け、児童向け、夫婦、親子、男性だけということで、よくここまでできたなと思って、感心しています。一つ、ここで提案させていただきたいことがあります。今年初めての、はあもにいのウィメンズカレッジですが、私も一度だけ出させていただきました。受講されている方の姿勢、目の輝き、何かを吸収したいという意欲がありありと見えてまいりました。ウィメンズカレッジで研修をされた方々が審議会の委員として出ていかれる一歩ということでしたが、私は、その前にウィメンズカレッジに参加した方だけという限定のもとに、先進県への研修を検討していただきたい。これから先は行政になるかもしれませんが。先進県といいますと、全国から男女共同参画を中心にした著名な方の講師もいらっしゃいます国立女性教育会館などですね。ここで2泊3日くらい研修を受ける。そして、さらに一歩踏み出して行ってほしいと思います。この運営審議会には幸い、市議の先生が2人いらっしゃるので、議会に取り上げていただけたらと思います。経費について、研修に行く方がおおむね負担して、行政が一部負担していただけたらと思います。それをこのウィメンズカレッジに参加した人ということにして出していただけたらと。これから先は行政の仕事だと思いますけれど、そこをぜひお願いしたいと思います。まずは議会にかけていただけたらと思います。この意見は私一人の意見ではございませんで、女性団体の中にもそういう意見を持った方が数人おられますので、私が代弁いたしました。

議長（清重会長）：ありがとうございました。では、八幡先生。

八幡委員：今の中山先生のお話に関連してです。私もウィメンズカレッジに、一回関わらせていただいたのですが、本当に受講されている方の意識が高くて……。

中山委員：意識が高いんですね。違うんですね。

八幡委員：はい。素晴らしいと思いました。

中山委員：素晴らしかったです。私も一度出させていただいて、それを感じました。

八幡委員：全く同感です。私も前に上天草市で審議会に関わらせていただいたときに、町議会議員に女性を活用しようという時や、国立女性教育会館への研修で2名派遣をする制度のようなものがあるときに、地域で育てたい人に声掛けをして旅費など財政的な支援するような取り組みをされていました。熊本市の場合は規模が大きくて、人材の発掘というのが小さい自治体のようににはできないと思うんですね。これからはウィメンズカレッジを受講されている方を積極的に活用していく、そういう制度はぜひ今後お考えいただきたいところです。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

中山委員：ありがとうございます。

議長（清重会長）：中山さん。どうぞ。

中山委員：行政でないとできない部分もあると思います。ですが、せっかくここで基礎を作ったのですから、もう一歩前進というところでしていただけたらと思います。

議長（清重会長）：ご意見サポートでもいいのですがオブザーバー、どうでしょうか？お差し支えない範囲で。

森川（オブザーバー）：女性の人材情報の充実というのは、当市としても課題となっております。直近では大学コンソーシアム熊本と連携して女性の研究者の登録による女性人材リストの充実を図っているところでございます。非常に意識の高いウィメンズカレッジの受講者のみなさんも女性人材リストにご登録をお願いできればと思っております。

議長（清重会長）：ありがとうございます。既にしていることとして、大学コンソーシアムがでございます。そこに協力を求めていますよという、そういう一つのですね。小出さんもこのウィメンズカレッジに参加しているというか講師で何かありますか？

小出委員：本当におっしゃるとおりでした。意欲的な感じで、私が逆にそちらに座って学ばせてもらいたいぐらいでした。これからさらにステップアップをしていく必要があるかと思います。森川さん、よろしくお願ひいたします。

それと意見ではないのですが、私もこれだけたくさんの事業を幅広くやっておられて本当に素晴らしいと思いました。特に子どもたちの「はあもにいを探検したよ」って、3年生で「男だからこうしなくてはならない、女だからこうしなくてはならないと決めつけず、自分らしさを大切にのびのびと生きることを手伝ってくれるところ」とか、素晴らしいなと思って。小学生の人生まで変わるのではないかと、とにかく素晴らしいなと思いました。ただ、先ほど会長おっしゃいましたように、私も横文字が多くて「ソフリエ・パパシエ」など、これはもう若い人にはもう当たり前の言葉？ 一種の何かですか？

吉田：「ソフリエ」は祖父、おじいさまの祖父とソムリエを掛け合わせた造語でして、パ
パシエはパパとパティシエを掛け合わせたものです。いずれも共同参画を推進する上
での何か造語としてこれから広めていきたいと思っています。

小出委員：チラシの一番下に、例えば※印で表示を書くとかそういうのはないですか？

吉田：記載はしていますが、アナウンスが足りないところがあるのだと思います。

小出委員：では必ず「コワーキング」とか「ソフリエ・パパシエ」とか、もう既に入れ
てらっしゃるということですがけれども、続けていっていただきたいと思います。

議長（清重会長）：ありがとうございます。先生、はい、どうぞ。

八幡委員：すみません。少しお話が違うので、二つですね。

私、熊本市の男女共同参画の委員会の委員をさせていただいております。これはまだ
公表はされてないと思うのですが、男女共同参画に関する市民意識調査というものを熊
本市が実施されました。3月くらいに公表されるのではないかとありますが、その
中に、はあもにいの知名度について、これだけいろいろ新しい利用者を開拓されたり、
はあもにいの知名度を上げるための取り組みをされていらっしゃるのですが、このアン
ケートの時点では必ずしも高くなかったとのことでした。熊本市は非常に規模が大きく
広がっていますので、今後も引き続き、知名度を上げる、利用率を上げるための取り組
みをよろしく願います、ということが一つです。

それともう一つ。このイベントの中で、小室さんのワークライフバランスに関する講
演会に参加させていただいたのですが、非常に盛況で、お話もとてもよかったです。そ
の時私が思ったのは、子ども連れの参加者の方が非常に会場に多く、おそらく託児
等希望された方は託児が利用できたのではないかとと思うのですが、子どもさん連れの入
場が多かったのも、子どもさん連れで講演を聞かれないというご希望の方が多いのかな
と思いました。例えば会場の一角にガラス張りの部屋、子どもさんが走り回ってもいい
ようなスペースがあるというような工夫ができると、子どもさんの声を気にせず一般
の聴衆の方も聞けるのかなと思いました。そのあたりは何か対策やお考えがありましたら
お聞かせいただきたいと思います。

議長（清重会長）：いかがでしょうか。館長からお答えいただけますか？

藤井：小室さんの講演会に関しては、私どもが全体のお子さんの数というのを把握がで
きてなかったと思います。応募の段階で託児申し込み者が多く、託児を利用できない申
し込み者がいるというのはわかっていましたが、思った以上にお子さま連れの方が多か
ったという結果でした。もう少し詳しく状況を予想する必要があったと思います。また、
当日はロビーで聞いていただくという工夫もしていたのですが、お母さま方には子ども
を抱いてでも中で聞きたいというお気持ちが強く、そういった方が混在してしまった点
が反省点です。今後は十分に考慮して講演会を企画したいと思います。

小室さんと話をしたところ、小室さんは自分の講演会には親子連れが多いそうで、会
場の真ん中に子どもたちが遊べるスペースを作って、一緒に聞いていただくということ

もしているということでした。対象者がそういう方々になると予想されるときには、詳細な打ち合わせが必要だなというのを感じました。ありがとうございます。

議長（清重会長）：ということです。実際に先生がおっしゃったようなガラスの部屋を作るとなると予算の問題もあるし、どこをどう区切るかとかいろいろあるでしょうけれども、でもとても大事な観点だと思いますので、ぜひ検討していただければと思います。

藤井：そうですね。

議長（清重会長）：他にどうでしょうか。そろそろ伊藤さんの番ですね。

伊藤委員：私の場合は、民生委員という立場でお伺いしているのですが、非常に今民生委員を受ける方が少なくなってきました。非常に高齢な方が増え、民生委員として働く雰囲気ガラッと変わってきています。そういうことで、若い方と年配の方とのギャップが非常に大きいですね。それは戦後の教育の型もあるでしょうけれども、戦前戦後の高齢者の方は、統制をされた家庭で育っておられる。現在の若い方はみんなオープンです。そういう中で、男女共同参画やワークライフバランスに取り組んでいくようにならないといけないのかなと感じているのですが、非常に日本社会が変わってきています。その変わり方が、急激です。それをどのように立て直していくかが、今からの課題ではないかと思いますが、いかがでしょう。先生。

議長（清重会長）：これは大変大きな問題ですから、どなたかコメントいただければ。では、そういうコミュニティの変化とかに通じてらっしゃる熊日代表に。

飯村委員：コミュニティの変化に対してということですね。コミュニティの消失と言いますか、私たちも非常に気にかけて取材をしています。年代ごとの縦のつながりについては、地域との縦のつながりが非常に薄れてきており、その状態がずっと続いているようです。その中で、どのような取り組みがそれを再生できるのかということについては、いつも注目しています。また、植木町には小さな子どもからお年寄りまで、子育て世代の親子一緒になって触れ合えるような「ばあちゃんち」という施設があり、そこはそういう取り組みをしているところだと思います。はあもにいに関しても、小さいお子さんから高齢者の方々まで参加できるような、いろんな取り組みをされているので、これを一つ一つこれからどういうふうにつないでいくかが重要だと思います。

私たちは特にウィメンズカレッジに注目していました。この目的に、継続できるネットワークの構築を目的としますとあります。やはり継続が力になっていくと思うので、ネットワークづくりを大事にしていくことが地域づくりにもつながっていくのかなという気がしました。そういう意味で、やはりネットワークの構築というのを、それぞれの講座、参加者が多かったものも少なかったものも含めて、今後につなげていただけたらと思っています。よろしくお願いします。

議長（清重会長）：ありがとうございました。だんだん多岐にわたってきました。

次の議題2に入って、それも含めて答えるということでどうでしょうか。皆さんご了承いただけますか。大事な次の議題が平成26年事業計画についてあります。これを提示

していただいて、議論にさせていただいてもいいのではないかと思います。よろしく願いいたします。吉田さん。どうもありがとうございました。

吉田：ありがとうございました。

議長（清重会長）：バトンタッチ。はい、では。

＝議題 2 平成 26 年度事業案について＝

反後：続きまして、平成 26 年度の事業案につきましてご説明させていただきたいと思えます。お手元の資料なのですが、19 ページからご覧ください。

平成 26 年度のはあもにい主催講座・指定講座の編成方針です。まず、25 年度につきましては、おおむね良好な講座運営ができたかと思えます。

1：男女共同参画への理解、周知を広げる啓発学習の充実につきましては、対象者を想定した内容の講座を設定し、4 月より実施しております。そして、男女共同参画週間や、はあもにいフェスタ、ミモザフェスティバルなど、多数の来館者が見込めるイベント時に男女共同参画啓発に直結した内容の講演会を実施しました。

【大学や高校、企業などとの連携】については、積極的に出前講座を行い、10 月には熊本大学との連携事業「ワークライフバランスと多様な働き方を推進する企業の取り組み」そして 7 月に N T T 西日本への出前講座を実施しております。

【全講座の初回には男女共同参画社会についての説明を行い、啓発を促すステッカーやフライヤーを作成し配布していく】という点については、講座スタート時に館長から会館の役目について、口頭での説明にとどまっており、啓発を促すステッカーなどは作成できておりません。

【小中学生を対象にはあもにい探検を受け入れ、館内を見学しながら男女共同参画に触れるプログラムの開発に取り組む】という点については、先ほどご説明したとおり、はあもにい探検隊を実施し、この効果というのが予想以上だったというように思っております。また、はあもにいフェスタの時に、男女共同参画に関するクイズラリーも実施しました。2 日間で 343 名の方に男女共同参画に関するクイズに答えていただきました。これも非常に効果的な啓発の機会になったのではないかと思います。

【中高大学生のインターンシップを積極的に受け入れ、はあもにいの職場体験をとおして男女共同参画社会について考え、学ぶ期間を要する】24 年度は 2 校でしたが、今年度 25 年度につきましては 6 校 10 名を受け入れました。さまざまな業務を通して、「男女共同参画とは」ということを考えていただくようなカリキュラムを作成しています。

2：センターを拠点とする団体、グループ、関係各所との連携促進

まず指定事業の講師や運営を、一部当センターを拠点に活動する団体やグループに依頼し、団体の活動の場を増やすと共に講座内容の充実を図りました。これは指定事業で講師をお願いした市民団体・グループが 8 グループ、はあもにいフェスタの参加団体も 24

年度の 30 団体から 37 団体に増えました。また、市民グループを対象にしましたチラシ作成講座なども実施し、市民グループの広報の強化支援なども行いました。

【保健センターや大学などとの連携による自主講座を実施する】熊本大学との連携事業、熊本市人権推進総室との連携事業、そして幸田公民館への出前講座を実施し、こういった連携により事業を拡大しております。

3：審議会や、責任ある立場で活躍できる人材の育成・発掘

【はあもにい女性大学を開講】として「ウィメンズカレッジ」を開講しました。

4：キャリアアップ就業につながる講座、プログラムの開発については、

【資格取得講座、再就職支援講座、起業家支援講座、キャリアアップの講座などを実施】しております。皆さん熱心に参加されており、検定試験も全国平均より高い数字で結果が出ています。次年度は就業につながる部分にも力を入れていきたいと思っております。

5：テレワーク推進講座や、IT 活用講座への積極的な取り組み。

館内に 20 台のパソコンを設置、用意し、これを活用した講座、フェイスブック講座や音声起こしの講座、エクセル 3 級資格取得講座を実施しています。テレワークに関しては、テレワークの講演会や音声起こしの講座以外の周知ができていなかったのではないかと思います。

これらの結果を踏まえまして平成 26 年度の開催講座の方向性を作成しました。

1：幅広い年齢層に男女共同参画についての理解を深めてもらうための講座や、イベントの企画運営

集客の見込めるイベント、大きなフェスティバルの時などに、男女共同参画を身近に感じてもらえるテーマでの講演会や映画鑑賞会を実施し、敷居を低くしてアプローチをしていきます。例として大学や企業、地域などへの出前講座などを積極的に行うほか、市役所内の他部署との連携事業なども積極的に働きかけるなど、足元からの周知を徹底していきます。

また、夏休み中の小学生を対象にした企画や、中高大学への出前講座などを実施します。毎月 1 回幼児室で行っている「よんでよんでの会」をとおして、子育てファミリーなどにも働き掛けていきます。

2：はあもにい「ウィメンズカレッジ」を中心にとらえた講座や人的ネットワークの構築

「ウィメンズカレッジ」の来年度につきましては、一部を公開講座として、他の講座の受講生にも参加を促すなど、男女共同参画への理解を徐々に深めてもらうような講座の組み立て、つなぎを行っていきます。

そしてウィメンズカレッジ修了生のネットワークを構築し、将来的には男女共同参画推進のためのファシリテーターや講師養成講座開設に向けた準備を進めます。先ほどもウィメンズカレッジの修了生の、継続できるネットワークの構築についてもご意見を頂

戴いたしましたが、ネットワークの必要性というのは非常に感じております。ここで終わらず、引き続き男女共同参画推進に関わっていただくために、場をつくっていく必要があるのではないかと考えております。

3：テレワーク推進事業

当初から重点項目に挙げているものです。来年度は事務局内に推進プロジェクトを置き、情報収集や関係各所との連携などを進め、一般市民並びに企業経営者に向けたテレワーク講演会を実施します。まず、コワーキングスペースの活用について再検討しまして、より役立つ場づくりのための環境整備、周知のための広報活動を行います。

次に、音声起こし講座を地域への出前講座とするなど、テレワークをより市民に近い場所で知ってもらう機会をつくっていきます。さらに、先進地の視察や研修会参加などを積極的に行い、事務局スタッフの専門性も高めていきたいと考えております。

4：「男女共同参画センターはあもにい」という想起率アップにつながる広報活動の実施

はあもにいの認知度の向上の必要性を感じております。①男女共同参画推進と会館紹介用動画を作成し、講座の開講時に必ず見ってもらうような仕掛けをする。②周知啓発を促すステッカーなどのPRグッズを制作配布していく。③妖精の「ミーモちゃん」というキャラクターを活用し、年間を通して話題づくりを行うなど、積極的な広報活動を行っていく。「ミーモちゃん」「はあもにい」「男女共同参画センターはあもにい」と連動するように、はあもにいの名前を広めていきたいと考えております。

以上の方向性をもちまして、来年度の事業を組み立てております。

◎男女共同参画啓発事業

男女共同参画に関する基本的な講座

今年度と同様多数の来館者が集まるフェスティバル等での男女共同参画を啓発する講演会、講座を計画しております。

6月28日が男女共同参画週間、11月29日～30日ははあもにいフェスタ、3月8日がミモザフェスティバルです。人が集まるときに効果的に男女共同参画に直結するような講座、もしくはワークショップを開催したいと考えております。

ワークライフバランスの推進に関する講座

テレワークの講演会は、田澤由利さん、先進的にテレワークを取り入れている佐賀県庁などの行政の方、企業などの方々をお呼びして、シンポジウムを組み合わせる形で考えております。ワークライフバランスの講座につきましては、来年度は尚絅短大の学生を対象に、出前講座をすることを考えています。

これからの男性の生き方に関する講座

「ソフリエ・パパシエ講座」を、区内、市内の各区と連携して公民館などで実施したいと考えております。より身近な場所で地域密着型の講座として開催することで、男性の育児参加を広めていくことができるように考えております。

「カジダン講座」は、中高年の男性をターゲットに生活力を高める内容で実施を予定しています。

女性に対する暴力防止に関する講座

来年度は「パワハラ・セクハラ防止講座」と「10代のデートDV防止講座」を検討しております。いずれも、出前講座もしくは出張講座として考えております。

市民グループ企画

現在募集中です。

◎社会参画支援事業

就業支援事業の資格取得講座

年7講座実施します。今まで開催した講座を検証し、人気がある資格、そして就職に関してアピールできるような資格取得対策講座を行います。来年度は、パソコンを活用する講座を増やし、テレワークの推進にもつなげていきたいと思っています。

就業支援事業の起業家支援に関する講座

来年度は「カフェ起業講座」を考えております。先ほどご意見も出ましたが、地域のコミュニティづくりというところで最近注目されているのが、地域の縁側や商店街の空き店舗などに住民の交流スペースを活用したカフェをつくるという活動です。今回は実務的な業務についても学べるようなシリーズの講座を今考えています。

就業支援事業の再就職に関する講座

育児中の母親向けの再就職準備講座として、「ママでもできる再就職準備講座」を考えております。

キャリアアップに関する講座

年に2回以上行います。ひとつは、「音声起こし講座」。非常に人気の講座ですが、今年度同様、実際にウェブを活用して、在宅ワークを体験できる内容を考えています。さらにこの講座を市内各区と連携して、公民館等でも実施できるような形を検討していきたいと思っております。

もう一つ「働く女性のお金の貯め方・使い方」。これは、ライフプランに合わせたお金の貯め方、使い方などを考える講座を計画しています。

コミュニケーションスキルアップに関する講座

「オーラを放つ話し方で女子力をアップ」。話し方に注目して、魅力ある話し方や思いを確実に相手に伝えるためのスキルなどについて学ぶ講座を一つ。そして、相手を受け入れつつ自分のことをよりよく分かってもらうためのコミュニケーションスキルを学ぶ

「アサーション講座」。これは市民団体と一緒に組み立てていきたいと思っております。

両立支援・親と子、父と子の料理教室

「親子で学ぶエコクッキング」は引き続き市民団体と共同で実施したいと思っております。もう一つは、父と子向けの料理教室「パパとフワフワオムライス」を考えています。

両立支援・夏休みクリスマス等の親子の触れ合いに関する催し

今年度自主事業として実施した「はあもにい探検隊」を親子の触れ合いとして行います。今年度の内容をバージョンアップして、男女共同参画に関する基本的な考え方もお伝えしたいと思っております。

また、今年度は「まつぼっくり劇場」を男女共同参画週間の託児の際に行いましたが、次年度は、はあもにいフェスタの時に実施したいと考えております。

◎「はあもにいフェスタ」

来年度は、11月29日～30日を予定しています。今年度非常に多くの方に来館していただきましたので、来年度は、さらにそれを外に伝えていくことと、男性のフェスタ参加者が少ないのではないかという意見もありましたので、男性の方にご来館いただけるような内容にしていきたいと思っております。

◎市民グループ等の活動支援

グループ支援制度、はあもにいフェスタ参加団体の支援につきましては、それぞれ今年度と同様に支援グループを募集します。また、はあもにいフェスタの参加団体には、学習室の貸出をして、支援をしていきたいと思っております。

◎市民文化の振興および交流

今年度と同様、1階のギャラリーを「わたしのギャラリー」として市民団体の方々に貸し出し、作品発表の場として提供したいと思っております。

◎自主事業「よんでよんでの会」

毎月1回継続的な利用者の拡大を狙い、未就学児とその保護者の方を対象に実施していきます。

◎自主事業「クマモト・ウーマン」

今年度も行ったラジオ番組です。来年度につきましては、おひとりの方を2回に分けて、ご紹介していきたいと思っております。

◎自主事業「第3回ミモザフェスティバル」

3月8日の国際女性デーを広めることを通して、女性であることを楽しめるような講演会やワークショップなどを実施します。次年度は市内の中心部を巻き込んだような広がりのあるイベントにしたいと思っています。

◎自主事業「はあもにいウィメンズカレッジ」

今年度の良かった点、あと課題もありますのでそれをいかして、来年度も引き続き実施していきたいと思っております。

◎自主事業「はあもにいdeライブ」

今年度初めて実施したイベントですが、来年度も会館利用の方に、またホールを使って発表していただきたいと思い、「はあもにいdeライブ」も予定に入れております。

駆け足でご説明させていただきましたが、ご審議をよろしくお願いいたします。

議長（清重会長）：どうもありがとうございます。この会館で仕事をするには相当早口でないといけないという……ご苦労がよく分かりました。過年度の実績の上に、さらにと
いう意欲が伝わってくるような展開だと。

何かご質問やご意見ございますでしょうか？ どうぞ、ご遠慮なく。では八幡先生。

八幡委員：失礼いたします。先ほどの来年度の実施事業案で、中学校高校大学との連携
というところがあったかと思いますが、私どもは中学高校やその先生方と関わらせてい
ただく機会が多くあります。男女共同参画は中学高校の場合、家庭科あるいは社会科で
扱う題材なのですが、実際、先生方の研修機関・市の教育センターではこういうテーマ
では扱われていません。何か、そういう先生方の研修機関に、年間をとおして「こうい
う講座が行われています」と先生方に送っていただくと「研修の一環で出てみようか」
とか、授業の教材として「地域の施設で、こういう取り組みがされている」ということ
を授業の時に紹介していただいたり、子どもたちにイベントを紹介していただいくとい
う、連携があればお互いメリットのある取り組みになるのと思ったところです。市の教
育委員会になるのか、研修機関のセンターとの連携になるのか…。ご検討いただければ
と思います。よろしくお願いします。

議長（清重会長）：どうもありがとうございました。答弁がありますか？

反後：ありがとうございます。確かに、中高大教育機関との連携というところで、それ
ぞれ事業ごとに単発でお願いさせていただくケースも、これまでにいくつかありました。
年間でこういったものがあるというお知らせの方法は、参考になるとと思いますので、ぜ
ひ取り組ませていただきたいと思います。と思っています。

議長（清重会長）：ありがとうございます。では、お待たせしました。伊藤さん。

伊藤委員：各講座、いろいろ事業をされるについて、こういう講座に対して募集の人員
の明記がないのですが、これはどうなっているのでしょうか？

議長（清重会長）：どうぞ。

反後：そうですね。そちらのほうに漏れておりましてすみません。メインホールは 372
席、多目的ホールは 180 人など、収容人数がありますので、どれをどこでやるという記
載がないので、分かりにくいかと思います。

講座は大体 20 名～30 名ぐらいです。料理教室ですと、親子で 30 名～36 名を定員にさせ
ていただいております。

議長（清重会長）：ありがとうございました。過年度の報告の中に実績として各数字が出
ていますね。それに大体準じるという捉え方ですね。目標数値を書き込んでおけば分か
りやすいのではないかという、伊藤委員からのサジェッション（提案）ですね。

伊藤委員：はい。

議長（清重会長）：他にいかがでしょうか。濱本さん。

濱本委員：はい。本当に25年度26年度含めて、まず一つ。男女共同参画推進とは、ものすごく幅が広いというのを改めて感じました。その中で、さまざまなことをやっていかれていらっしゃるというのは、本当に素晴らしいことだなあと思っているところです。特に来年度は、はあもにいに来て参加できる人たちだけに向けてではなく、社会にどんどん出ていくと言いますか、いろんな公民館に広げていかれようとしているところは素晴らしいなあと。まさしくそうしないと、認知度は広まっていかないと思っていました。就労支援の部分では、女性が働きやすい環境づくりなどもされていらっしゃると思うのですが、これがこの男女共同参画推進から少しはみ出る部分だと思うのですが、具体的に例えば今厚労省で、女性に優しい企業を認定するなどの活動がありますが、具体的にそういう企業ともっと直接採用までつなげていく仕組みもあっているのかなと思いました。そのあたり、はあもにいの枠を超えるのかもしれませんが、今お考えがとおりでしたら、お聞かせいただければと思います。

議長（清重会長）：ありがとうございます。いかがでしょうか？ お答えいただける？

反後：はい。今現在で具体的に企業の、どこかとつながっているというようなところはございません。ただこの目的が就労支援事業なので、本当にそこまでいけたらとは思っております。例えばテレワークとか、業種が限られているところもありますが、そういったところと、受講生をつなげるといったようなことはできるのかもしれませんが。

議長（清重会長）：何か付け加えることはありますか？館長、では、お願いします。

藤井：はい。この就労支援に関しては、いろいろなところで行われているということで、すみ分けがなかなか難しいと思ってます。はあもにいはどの辺りを担当したらいいのだろうということをこれまで模索している状態でもありました。私どもの再就職支援講座や資格取得講座に来られる方々というのは、いつかそのうちに就職したいなというような方が多いというのが今のところの判断です。せっぱつまった方は、ハローワークの講座を利用されているとのことです。もう少し時間をおいて再就職をしたいとか、そういうふうを考えていらっしゃる方に対しては、どうつないでいくのが、次年度の課題になると思うので、その辺りは、企業や関係団体との連携も含めて、もう少し情報収集が必要だと思います。前向きに取り組んでいきたいと思います。

議長（清重会長）：はい。ありがとうございます。中山先生、どうぞ。

中山委員：今のことに少し関連してですが、私の過去の経験から申し上げます。女性の働きやすい環境づくり、女性を即戦力として雇用していただきたいということを目的に、3回シリーズで経営者と語るというのを設けたことがあります。それは、熊本県の経営者の方に全部、文章で案内して、経営者がどのような意見を持っているのか、とにかく経営者と語るという内容です。3回しましてもなかなかこれ難しいです。難しいですが、中にはレベルの高い方もいらっしゃるし、まだまだ男女共同参画なんてとんでもないというところもあります。やってみたらこれ面白いと思いますし、将来つながっていくことだと思います。過去の経験から、それを痛切に感じたことがあります。

議長（清重会長）：どうもありがとうございました。他にどうでしょうか？ どうぞ、

飯村委員：質問なのですが、19 ページの 25 年度を振り返ってというところで一点。自主事業の「ウィメンズカレッジ」というのは、非常に私も注目していたのですが、この 1 年でいろいろ課題も見えてきたというお話があったので、その見えてきた課題と、それに対する取り組みを具体的にお聞きしたいです。もう一点、テレワーク推進事業に関しては記者を出して取材をさせていただきましたが、このテレワーク推進事業についても、これからまた推進・拡大・発展させていかれる事業だと思うのですが、課題や、今後の普及に向けた取り組みなど、お伺いしたいと思います。お願いします。

反後：「ウィメンズカレッジ」の本年度の課題は、当初 30 名いた受講生が、大体 15 名～20 名ぐらいの間の出席者になっておりまして、途中から欠席者が目立ってしまったというところが一番大きな課題だったかなと思っております。この講座では 8 割以上出席もしくは欠席してもその課題提出で修了としていますが、今回修了される方は 17 名です。これをいかにして出席率をアップするかという点で、期間を 6 月から 12 月に短縮して集中させることを考えています。内容については、来年度も魅力的な講座にすべく検討したいと思っております。テレワークについては、吉田に代わります。

吉田：テレワークの推進に関する課題ですが、テレワークとは場所や時間にとらわれない、自分の生活スタイルに合わせて働く、柔軟な働き方です。このような働き方をしたいという方は、とても多いです。ただ、それを良しとする企業が少ない、また、取り組むことに躊躇している企業が多いのが実情だと思っています。このように、やりたい人は多いけれども導入する企業や団体が少ない、という構図が崩れないところが課題だと思っています。対策としては、テレワークを実際取り入れている企業をロールモデルとして打ち出して、モデルとなるような企業を増やしていくことが一番大事かと考えております。今年度は企業に対するアプローチ、経営者に対するアプローチ、テレワークを導入することのメリットなどを伝えていくことが必要だと感じているところです。

議長（清重会長）：よろしいでしょうか？

藤井：「ウィメンズカレッジ」に関して、付け加えを。「ウィメンズカレッジ」の内容については、先生方にもご意見をいただきながら組み立てていくところではあるのですが、ひとつ、熊本市が抱えているテーマについて、実際に自分たちで考えてみるワークショップを取り入れたらどうかと考えています。また次年度は、例えば農業団体など女性の皆さんとの交流や意見交換会など、はあもにいから出て学ぶというアクションを起こしてもいいかと考えているところです。

正式なプログラムはこれから深めていきますので、今日皆さんのご意見もお聞きした上で、決定をしていきたいと考えているところです。

飯村委員：中盤からの欠席者が目立ったというのは、なぜそうなったのでしょうか。

藤井：これは、大学生が含まれており、途中で就活がスタートしたということ。また、郡部の方が続かなかったようです。仕事で忙しくて来れなくなったという諸事情もあったと把握しています。

議長（清重会長）：よろしいでしょうか。ありがとうございました、館長。それでは何か他にご発言がありますか。では、この後は、実績報告ですね。

＝議題 3 平成 25 年度貸館関係の実績状況＝

議長（清重会長）：では、お願いいたします。

吉田寛：はい。私から平成 25 年度の貸館関係の実績状況をご説明したいと思います。

吉田寛：まず貸室が合計 15 室ございます。1 階メインホール、2 階多目的ホール、食のアトリエ、3 階創作アトリエ、リハーサル室、4 階が会議室、研修室などです。

来館者数につきまして、24 年度が、対前年度比 100.8%、25 年度につきましては、4 月から 12 月で去年と比較すると、104.7%という状況です。

ホールの利用者は、メインホールと多目的ホールを合わせた数字です。24 年度が対前年度比 97.4%で少し下がっておりますが、24 年度と 25 年度の 4 月から 12 月を比較しますと 106.2%と上昇しております。

情報資料室の来室者数と利用者数です。利用者数は実際に本などを借りた人数です。24 年度が、来室者数が対前年度比 123.9%、25 年度の 4 月から 12 月で 102.1%と、2 年続けて増えております。利用者数は、24 年度が対前年度比 124.2%、25 年度の 4 月から 12 月の比較では 114.1%と、こちらも増えております。

続きまして、利用率と稼働率は 15 室の合計です。まず利用率と稼働率という言葉の説明ですが、利用率は当該月内に利用があった日数を当該月内で利用可能な日数で割った値です。稼働率は、当該月内に利用があった区分数（午前、午後、夜間）を当該月内に利用可能な区分数で割った値です。23 年度の利用率 45.6%が、24 年度 49.4%、25 年度の 12 月末で 50.4%ということで増えております。稼働率につきましても 28.9%が 29.5%、29.3%と増えております。

ホール関係の利用率と稼働率、こちらはメインと多目の合計の利用率と稼働率の比較です。24 年度が利用率 52.5%、25 年度が 49.5%と、若干下がっております。稼働率は、38%が 35.5%です。昨年の実績できますと、2 月から 3 月は 1%ほど利用率、稼働率が上がる傾向があります、25 年度が 49.5%と 35.5%ですが、このあたりは若干上がってくるのではないかと考えております。

続きまして、幼児室の託児利用者数です。24 年度は、対前年度比 50.7%、25 年度の 4 月から 12 月で比較して、124.4%でした。24 年度の数字が下がっている原因は指定管理の初年度で、4 月 5 月の講座の企画ができなかったこと、託児対象のお子さんをお持ちの方を対象にした講座を企画しなかったことで、託児が少なかったです。

最後に有料駐車場の利用台数です。24年度が対前年度比144.4%、25年度の4月から12月の比較で102.1%です。24年度は、前年比が大きく上昇しましたが、理由は23年度に駐車場の工事があり利用台数が少なかったとからです。25年度については、前年と同程度の状況です。貸館関係の実績につきましては、以上です。何かご質問がありましたら。

議長（清重会長）：吉田課長、どうもありがとうございました。着実にわずかずつでも進んでいるということですね。本当にありがとうございました。

これで審議委員会を終わりますが、私たちとしては、これほど、多様なまた多数のプログラムを立ち上げて、成功裏に進めてくださっていることに対して心から感謝申し上げます。これはひとえに館長、副館長のリーダーシップのたまものであると思います。それからまた、スタッフの皆さまにも心から感謝します。これまでの準備作業も大変だったと思いますが、今日の役割分担も見事にこなしてくださいました。

それから審議委員の仲間に、それぞれのお立場からご発言してくださったことを感謝いたします。今年もこの審議委員として委託された仕事に真剣に取り組んで、少しでもお手伝いしていきたいと思います。皆さんご記憶でしょうか。本会館の施策方向性というのは、4つの矢です。やる気の出る社会、安らぎ、やりがい、優しさと。3本の矢を自慢している人もいますが、うちはそれよりも一本上回るという、これを心に決めながら今年もまい進していきたいと思います。ご協力ありがとうございました。最後になりましたが、閉会のごあいさつを副館長から願いたします。

加島：皆さんお忙しい中ご参加いただきありがとうございました。私どもの運営も2年経とうとしています。報告でありましたように、年末に行った地域の方たちとの意見交換会で、私どもの活動がまだまだ浸透していないということを真摯に受け止めていかなくてはと思った次第です。これまで、こいのぼりを泳がせたり、イルミネーションを飾ったり、今年は夏祭りに参加したりと行ってきましたが、もっと地域の中に入っていくことを念頭に置きながらやっていきたいと思っています。

そして、同じ敷地内のサンライフには大きなサインがありますが、はあもにいは小さく、目の前で「はあもにいつてどこですか」と聞かれることもありますから、何か対処していきたいと思っております。また、おとし臨時駐車場として40台ほどの駐車場を確保していた場所がなくなりまして、正直大変です。スタッフ総出で駐車場の整理や人のさばきをしております。

建物が24年たっておりまして、経年劣化が随所に出てきております。安全、安心が一番ですが、音響や照明などの機材の故障は、市にお願いしながらやっていきたいと思っております。スタッフは、消防や防犯、防災関係のセミナーやマナーセミナー・勉強会も行っています。お客さまに喜んでいただき、地域の方たちをもっと受け入れていきたいと思っています。親しまれる「はあもにい」になっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

進行（山田）：これで審議会を終わらせていただきます。ありがとうございました。